

小学校第1学年 国語科学習指導案

単元名：「くらべてよもう」

教材名：「じどう車くらべ」

学習内容：はしご車の「しごと」と「つくり」を考えて書く。(6/12)

授業者：橋本 多鶴

授業日：11月20日(水)

授業場所：2階 小1教室

【単元計画】(学習活動)

① 範読→学習の見通しをもつ。	⑥ はしご車の「しごと」と「つくり」を考えて書く。
② 内容の大体を読み取る。	⑦ 自動車の図鑑から書きたい自動車を選んで読む。
③④⑤ それぞれの「しごと」と「つくり」を書き抜く。	⑧ 好きな自動車のしごとと、つくりを調べる。 ⑨⑩⑪⑫ 自動車カードを書く。

【教材分析】

「問い+答え+答え+答え」という列挙型の構成になっている説明文である。「どんな仕事をするのか」そのために「どんなつくりになっているのか」という具合に、問いが二つあるため、二つの段落に分けて書かれている明確な構成である。仕事とつくりを書き抜いて整理することで、二つの関係性をいっそうはっきりと理解することができる。教材の後半では、「はしご車」の挿絵があり、前半の読みで学習した構成で書くことができるように指導していく。

【児童の実態】

【関連する指導事項】 事柄の順序を考えながら内容の大体を捉えること。(読-(1)-ア)

【本時のねらい】

教科書の挿絵や自分の知っていることなどをもとに、はしご車の「しごと」と「つくり」を考える活動を通して、「しごと」にあった「つくり」であることに気づき、はしご車の説明を、「しごと」と「つくり」に分けて、「そのために」を使って書くことができる。

【汎用性のある学び方】 文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文章を書くこと。

1 教科書を音読し、はしご車の説明を書く見通しをもつ。

はしご車の「しごと」と「つくり」を考えて書こう。

2 教科書の挿絵や自分の知っていることを基に、はしご車の「しごと」と「つくり」を考える。

【手立て1】

前時までの文型を生かし、挙げた意見を基に、教師と一緒に説明する文章を考える。

どんな「しごと」をするために、どんな「つくり」になっているのか理解できるようにする。

【手立て2】(深めの発問)

「はしご車の『つくり』はどんな『しごと』をするためのものですか。」

例えば、タイヤが6つというのはトラック等にも当てはまることなので、はしご車の「しごと」と関連した説明になっていない。

3 板書を基に、はしご車の文章を書き、交流をする。

【手立て3】

互いに、「問いかけ」と「答え」を言い合うようにする。

「問いかけ」の意味を定着するように、児童同士で言い合うようにする。

4 実際の図鑑で、「はしご車」がどのように書かれているかを確認する。

はしご車は、かじのとき、たかいところにいる人をたすけるしごとをしています。そのために、ビルの上までとどく、ながいはしごがついています。車たいがかたむかないように、じょうぶなあしもついています。

(口頭、ワークシートの記述)【読-(1)-ア】